

令和4年 壱岐市議会定例会 9月 議会 議 録 (第2日)

議事日程 (第2号)

令和4年9月12日 午前10時00分開議

日程第1	報告第11号	令和3年度壱岐空港ターミナルビル株式会社に係る経営状況の報告について	質疑あり、 報告済
日程第2	報告第12号	令和3年度株式会社壱岐カントリー倶楽部に係る経営状況の報告について	質疑あり、 報告済
日程第3	報告第13号	令和3年度公益財団法人壱岐栽培漁業振興公社に係る経営状況の報告について	質疑あり、 報告済
日程第4	報告第14号	令和3年度一般財団法人壱岐市開発公社に係る経営状況の報告について	質疑なし、 報告済
日程第5	報告第15号	令和3年度一般社団法人壱岐市ふるさと商社に係る経営状況の報告について	質疑あり、 報告済
日程第6	報告第16号	令和3年度壱岐市財政健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	質疑なし、 報告済
日程第7	議案第38号	壱岐市職員の定年等に関する条例の一部改正について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第8	議案第39号	地方公務員法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第9	議案第40号	壱岐市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第10	議案第41号	壱岐市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第11	議案第42号	令和4年度壱岐市一般会計補正予算 (第7号)	質疑なし、 予算特別委員会付託
日程第12	議案第43号	令和4年度壱岐市国民健康保険事業特別会計補正予算 (第2号)	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第13	議案第44号	令和4年度壱岐市介護保険事業特別会計補正予算 (第1号)	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第14	議案第45号	令和4年度壱岐市下水道事業特別会計補正予算 (第1号)	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第15	議案第46号	令和4年度壱岐市三島航路事業特別会計補正予算 (第1号)	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第16	議案第47号	令和4年度壱岐市農業機械銀行特別会計補正予算 (第1号)	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第17	議案第48号	令和4年度壱岐市水道事業会計補正予算 (第2号)	質疑なし、 産業建設常任委員会付託

日程第18	認定第1号	令和3年度壱岐市一般会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 決算特別委員会付託
日程第19	認定第2号	令和3年度壱岐市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第20	認定第3号	令和3年度壱岐市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第21	認定第4号	令和3年度壱岐市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第22	認定第5号	令和3年度壱岐市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第23	認定第6号	令和3年度壱岐市三島航路事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第24	認定第7号	令和3年度壱岐市農業機械銀行特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第25	認定第8号	令和3年度壱岐市水道事業会計欠損金の処理及び決算の認定について	質疑あり、 産業建設常任委員会付託

本日の会議に付した事件

(議事日程第2号に同じ)

出席議員 (15名)

1 番	森 俊介君	2 番	樋口伊久磨君
3 番	武原由里子君	4 番	山口 欽秀君
5 番	中原 正博君	6 番	山川 忠久君
7 番	植村 圭司君	8 番	清水 修君
9 番	赤木 貴尚君	10番	音嶋 正吾君
11番	小金丸益明君	13番	中田 恭一君
14番	市山 繁君	15番	土谷 勇二君
16番	豊坂 敏文君		

欠席議員 (なし)

欠 員 (1名)

事務局出席職員職氏名

事務局長 山川 正信君 事務局次長 平本 善広君

事務局係長 折田 浩章君

説明のため出席した者の職氏名

市長	白川 博一君	副市長	眞鍋 陽晃君
教育長	久保田良和君	総務部長	久間 博喜君
企画振興部長	中上 良二君	市民部長	西原 辰也君
保健環境部長	崎川 敏春君	建設部長	増田 誠君
農林水産部長	谷口 実君	教育次長	塚本 和広君
消防本部消防長	山川 康君	総務課長	平田 英貴君
財政課長	原 裕治君	会計管理者	篠崎 昭子君
監査委員	吉田 泰夫君		

午前10時00分開議

○議長（豊坂 敏文君） 皆さん、おはようございます。

会議に入る前に、あらかじめ御報告いたします。壱岐新聞社ほか2名の方から、報道取材のため撮影機材等の使用の申出があり、許可をいたしております。

ただいまの出席議員は15名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 報告第11号～日程第6. 報告第16号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第1、報告第11号から、日程第6、報告第16号までの6件を議題とし、これから一括して質疑を行います。

報告第11号令和3年度壱岐空港ターミナルビル株式会社に係る経営状況の報告について質疑の通告があつておりますのでこれを許します。4番、山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 壱岐空港ターミナルビル株式会社に関して、素朴なところで質問いたします。

まず、株主は壱岐が最大の株主だということではありましたが、それ以外にはどういう株主がいるのかということと、2点目に取締役が市長と振興局長とか3人ですが、日々の運営にあつては社員はいると思うんですが、その辺りの状況が分かりませんので、社員は何人ほどがいて、その社員はどのような身分の人がいるのかと、決算報告を見ると給与のところにゼロと書いてありますので、そういう点でちょっと教えていただきたいと思っております。お願いします。

○議長（豊坂 敏文君） ただいまの質疑に対する理事者の答弁を求めます。久間総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） おはようございます。山口議員の御質問にお答えをいたします。

彦岐空港ターミナルビル株式会社の株主は、彦岐市以外に5社ございます。取締役については登記簿に記載がされておりますので申し上げますと、長崎県、彦岐交通株式会社でございます。そして、残りの3社につきましては、会社名のほうは控えさせていただきたいと思っております。

次の質問で、社員は何人いるのかというところで、ここで確認でございますけども、今の質問で行きますと、社員というより従業員という取り方でようございますかね。（「はい、そうですね、はい」と呼ぶ者あり）そうした場合、彦岐空港ターミナルビル株式会社には従業員はおりません。彦岐市の担当者が彦岐空港ターミナルビルの維持管理及び経理業務を行わせていただいております。根拠的に申し上げますと、彦岐市行政組織規則の内部組織の所掌事務において総務課の事務分掌のほうに、彦岐空港ターミナルビルの管理運営に関することと定めがございますので、規則に基づき事務処理を行わせていただいております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 分かりました。5社ということと、従業員だということですが、市のほうの事務職員が担当として1名ないし2名ということですか。

○議長（豊坂 敏文君） 総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） 係としては、総務班のほうで担当しております。正副という形で考えれば、2人が対応しておるということになります。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） このターミナルビルの運営の決算見ると、赤字が昨年もそうですし、今年もそうだということですが、その赤字がどんどん続いている、この赤字解消を含めたそのターミナルビルの今後の運営方向、赤字を解消するとか、それから新たな事業に取り組むとか、そういう方向性はあるのかどうかお聞かせください。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員、3回目ですけど。

○議員（4番 山口 欽秀君） はい、いいです。

○議長（豊坂 敏文君） 総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） 山口議員の質問にお答えいたします。

今後の収入の増加見込みを含めて、運営が大丈夫かというところの御質問と思えますけども、決算のほうにも数字としては出ておりますけども、現在楽天モバイルの屋内アンテナ設置に対する賃借料が令和3年度は途中契約のため5か月分を計上させていただいております。これが、9万2,624円の収入でございますけども、今後12月分になると27万7,873円の営業収

益として、次年度に伸びる見込みとしては、そのところを押さえておるわけです。18万5,247円の増収になる見込みはしております。

また、営業費用に影響を与える減価償却費が、令和3年度に伸びておりますのは、令和2年度にAEDを更新したことによりまして、これも償却率が0.5となっておる所からでございます。こうした分析によりますと、今後は当期純利益は出ていないものの、今後の運営においては見通しが立たないという状況ではないと分析をしております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 次に、報告第12号令和3年度株式会社壱岐カントリー倶楽部に係る経営状況の報告について、質疑の通告があっておりますので、これを許します。4番、山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 壱岐カントリー倶楽部のほうからの決算報告を見ますと、収益が上がっているという、このコロナ禍の中、ということですが、その一方で後半で、シニア層が今まで支えてきたけども、今後この支えてきたシニア層が後期高齢者ということで、ゴルフからリタイアするんじゃないかということで、急速なゴルフ人口の減少が予想されるというふうな分析をされております。その点で現在のカントリークラブの会員数のこの近年の推移を教えていただきたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） ただいまの質疑に対する理事者の答弁を求めます。中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 山口議員の御質問にお答えをいたします。

壱岐カントリー倶楽部会員数の近年の推移についてでございますが、壱岐カントリー倶楽部の会員につきましては3種類ございます。まずメンバー会員について御説明をいたします。メンバー会員につきましては866名で、変動がない状況でございます。これは新規会員権の発行を行っておらず、メンバー会員を退会された場合、新規メンバー希望者に書き換えをする形となっているため変動がございません。次に、年間会員の推移についてでございますが、平成29年が33名、平成30年が41名、令和元年が32名、令和2年が60名、令和3年が69名となっており、毎年増加傾向にございます。最後に39会員、サンキュー会員と呼びますが、こちらは39歳以下が対象で年会費1万円でプレイ料は安くなっておりまして、若者のゴルフ人口増加対策の会員制度となっております。39会員の会員数につきましては、平成29年が23名、平成30年が23名、令和元年が24名、令和2年が24名、令和3年が25名となっております。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 今聞きましたら、年間会員ですか、増えているということで、そ

ういう意味で言うと、今回出されている危惧に対して、一定まあそう急速な不安はないというふうに感じますが、島外からの会員さんというのが、ここの中にどのくらい、今年だったら69名のうち、島内の会員さん、島外の会員さんということで、その辺りの比率で行くと、島外からの利用が今後期待されるのかどうか、その辺りはどうなんでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 島外の会員につきましては、年会費がないということになっておりまして、人数はちょっと不明でございます。ただ、島外の利用者の状況でございますが、令和3年度につきましては612名、前年度が565名ということで、増えている状況でございます。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） いろいろデータを聞かせていただいて、この営業報告とちょっと差があるなというふうに思いましたが、一応増えているということで安心しました。ありがとうございました。

○議長（豊坂 敏文君） 次に、報告第13号令和3年度公益財団法人壱岐栽培漁業振興公社に係る経営状況の報告について、質疑の通告がっておりますので、これを許します。4番、山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 議員になって2回目の決算ということで、壱岐栽培漁業振興公社についての報告も2回目聞くわけですが、1年目の昨年は分からなくて、また今回もちょっと説明をいただきたいなということが、説明を受けてありましたのでお願いします。

まず、事業報告、3ページのところで、基金造成というところで、県と市から運用財として、4億円ずつ8億円がありますと、その後のところ、平成14年12月27日の長崎県出資団体あり方検討委員会の最終提言があったと、基金の造成を中断すると、そして引き続き支援事業を実施すると、この辺り書いてあるんですが、ちょっとこの辺り、よく、1年目では分かりづらいです。ので、ちょっと説明をいただきたいということが1つです。

もう1つは、壱岐の漁業を考えたときに、今後栽培漁業というのが、やっぱり一つ今まで以上に力を入れる必要があるんじゃないかなということを感じておりますが、今後の事業のあり方とどのような検討がなっているのか教えていただきたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） ただいまの質疑に対する理事者の答弁を求めます。谷口農林水産部長。

○農林水産部長（谷口 実君） 4番山口議員の基金の造成についての御説明をさせていただきます。壱岐地域栽培漁業振興公社につきましては、壱岐市に合併前の平成11年10月に設立をされております。基金の原資は先ほど申されたように8億円で、当公社の運用財産として、平成

11年度から平成14年度までの4年間で、長崎県が4億円、そして旧4町で4億円を出捐をいたしております。旧4町の4億円のうちには、5つの漁協から1,600万円ずつの合計8,000万円の一般寄附が財源として含まれているところでございます。

その後段のほうの御質問の中について御説明をいたします。当初は平成11年度から平成15年度までの5年間で、長崎県が1年間に1億円ずつの5億円、それから旧4町で同じく1年間に1億円の5億円ずつを出捐し、5年間で全体で10億円を造成する計画でありました。

しかしながら、平成13年の12月の27日に設置されました長崎県出資団体あり方検討委員会は、社会経済情勢の変化等を踏まえ、県が出資または出捐を行っている団体について、その設立目的、趣旨にまで遡って再点検を行い、見直しを進めるために知事の諮問に応じ提言を行うとして、平成14年の12月の27日の最終提言の中で、当財団は基金造成中であるが、最近の低金利を考えると基金の運用益だけでは事業展開に限界があるため、基金造成を中断し別途必要な事業量の確保について検討すべきであるというふうに提言がなされております。そういったことから基金の造成が4年間で中断することになりまして、現在8億円での運用を行っているところでございます。そこで別途必要な事業量を確保すると、県のほうの提言、あり方委員会での提言があった中では、その後に平成16年から平成24年までは、県がトータルで5,600万円ほどの補助事業を実施をいたしてございまして、その後は今の運用のような方法でこれまで継続して実施をしてきている状況でございます。

それから2番目に、今後の公社の事業のあり方についてどう考えているかということでございますけれども、資料2ページの当法人の構成組織がございしますが、市内5漁協、それから壱岐市漁業協同組合長会、壱岐振興局、壱岐市の構成メンバーの中で、その事業方針等は決定されていくものと考えておりますけれども、当法人の目的である地域栽培漁業の持続的な発展を図るために、とりわけ採介漁業の漁獲向上と経営安定を図るために、令和4年度の事業の中でも、令和3年度と同様に、アワビの種苗放流事業が計画をされており、今後も継続をされていくものと考えております。またその他この公社以外の壱岐地域の栽培漁業の推進協議会における事業、放流事業等も行っておりまして、これについてはやはり先ほども申しました、この目的に沿って放流事業は進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 1点目について言いますと、8億円の運用益でのこの栽培公社の運営になるということですよ、そうするとこの低金利の中で運用益そのものはもう期待できないですよ、大きく増えると、そういう状況の中で、この公社の運営をやられているということと、先が、その広げていくという点ではなかなか見えないんじゃないかなというふうに思

いますが、その点で、壱岐の漁業についてのことも含めて、この運用益だけで今後も進めては、今回のアワビの種苗のこの域を超えないのではないかと思いますが、新たにその施策っていうのはないということであるわけですか。

○議長（豊坂 敏文君） 農林水産部長。

○農林水産部長（谷口 実君） 先ほども少し申し上げましたけども、新たな事業費を確保して栽培漁業推進していくということから、今現在は、あの例えば国の交付金事業、離島漁業再生交付金事業とか水産多面的機能発揮対策事業とかいったそういった交付金事業がございまして、その交付金事業を活用して各漁協の各集落においてその事業を実施されているという状況でございまして、そういった公社、そしてまたはそういう交付金事業、それから栽培漁業推進協議会の事業等を活用して総合的にその推進を図っていくという計画でいるところでございます。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（４番 山口 欽秀君） ぜひ、公社という形で今形があるわけですから、今後の壱岐の漁業の方向性を見定めながら、この中に漁業政策のその大きな位置づけも必要じゃないかなと思いますので、検討をというふうで意見を言って終わります。

○議長（豊坂 敏文君） 次に、報告第１５号令和３年度一般社団法人壱岐市ふるさと商社に係る経営状況の報告について質疑の通告がっておりますので、これを許します。４番、山口議員。

○議員（４番 山口 欽秀君） 昨年もこのふるさと商社について聞きましたが、とりわけコロナ禍の中で商品の取扱いの状況っていうのはどういうふうに増えているのか減っているのかと、そういうことを１つ。

２つ目は壱岐の様々な業者が、コロナ禍でどう経営を広げていくかということで、このふるさと商社を利用が広がっているのか、広げようとふるさと商社のほうが努力されているのか、その辺りの近年の状況をお知らせしてください。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 山口議員の御質問にお答えをいたします。まず取扱い品の近年の推移についてでございます。まず取扱品の推移でございますが、年度内に一度でも商取引があった商品の過去３年間の推移といたしましては、令和元年度が３００品で、令和２年度が３７０品、令和３年度が３５３品となっております。平成２９年に設立以来、年々取引事業者を増やしまして、取扱品を増やしてまいりましたが、令和３年度におきましては取扱品が減少しております。これは平成２９年の食品表示法の改正によりまして、全ての加工食品の食品表示基準が改正をされました。で、加工食品に含まれる原料の原産地表示が義務づけられるようになりまして、生産者はその対応ができなければ販売ができなくなりました。法的には本年３月末まで

が経過措置期間としての猶予がございましたが、いち早く対応した取引先では原産地表示に適應していない商品を取引しなくなったことから、取扱商品が減少をしている状況にございます。生産者には商社のほうから事情を御説明をいたしまして、対応の助言を行っているところでございます。年々、食の安全に対する対応が厳しくなっておりますが、商社といたしては、生産者に対し対応の助言やお客様から頂いた声をフィードバックするなど、商品の品質向上に努め、さらなる販路拡大に努めてまいります。

2つ目の商社を利用する事業者の近年の推移についての御質問ですが、事業者の推移につきましては、年度内に一度でも商取引があった竜崎市内で仕入れを行っている事業者の過去3年間の推移といたしましては、令和元年度が65社、令和2年度が62社、令和3年度が50社でございます。減少した要因といたしましては、コロナ禍により取引全体が縮小したことによりまして、仕入事業者が限られたこと、また食品表示法の改正に対応できない事業者との取引見合せが要因として考えられます。また、この3年間で4事業者が廃業をされておりまして、仕入事業者減少の要因になっております。食品表示法の改正につきましては、先ほど申し上げましたとおり、生産者に対応の助言などを行うとともに、今後とも新規仕入先の開拓に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（4番 山口 欽秀君） 今、取扱いの事業者が減っているということで言われましたが、ある干物の業者に話を聞きましたら、魚が入荷しない、だから干物作れない、だから昼間お客さん来ても売る干物がないと、そういうふうに言われるぐらいその事業が続くためには、単なる売ってもらうというよりは、もとの事業をどう続けるかというところでの悩みを言われたものですから、そういう点でのふるさと商社の役割はそこにあるのかどうかちょっとあれですが、広げて利用業者の対応が必要じゃないかと思いますがどうでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 中上部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 山口議員の御質問でございますが、商社機能につきましては、竜岐産品を島外へ送りだす、いわゆる画期的な機能でございまして、多くの生産者の方からもありがたい声を頂いておりまして、コロナ禍の中での生産者の売上向上につながっているということで認識をいたしております。またコロナ禍の中では、卸売事業とか通販事業、いずれも対前年度と比較をいたしまして実績を伸ばすことができておりまして、全体でも売上げにつきましては、2,500万円に対して実績3,234万円と実績を上げている状況でございます。先ほど申し上げましたように新規の事業者の開拓はもちろんでございますが、ただいま山口議員がお話しされましたような状況というのもございますので、ふるさと商社といたしましても、そういった事業者様に対しましては、いろいろと協議を行いまして、できる限りの対応をさせていただきたい

というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 山口議員。

○議員（４番 山口 欽秀君） 幅広く、通販の販売が一般的になりつつありますので、そういう面ではふるさと商社の出番っていうか役割が大きいわけですので、その辺りの細々とした手伝いが、市でいくと、業者のとか、ある意味においては農家とか、漁師さんたちが経営を広げるというか、仕事として利益を上げるために新たに参加される方も増えると思いますので、その点での努力をよろしくお願いします。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） ほかに質疑ありませんか。音嶋議員。

○議員（１０番 音嶋 正吾君） 今、山口議員からふるさと商社に関する質疑がございましたが、私もね一番、コロナ禍を通じて、一番伸ばさなければできない事業形態であると考えております。壱岐市は事業は立ち上げますけど、最終的に尻つぼみになっている、末広がりになって自立するというのが本来の企業のあり方で、反対に全部なっておる。もう少し緊密に連絡を取って、販売者と、そしてやはりふるさと商社と、事業の発展にね、資する、本来の目的に沿うように、手入れをしていただきたい。全ての事業で私はそのようになっておるように危惧をいたしております。これは要望です。よろしくお願いします。

○議長（豊坂 敏文君） 答弁要りませんね。答弁要りませんね、はい。

○議員（１０番 音嶋 正吾君） 結果が示しますから答弁は要りません。

○議長（豊坂 敏文君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、以上で報告第１１号外５件の質疑を終わります。

以上で６件の報告を終わります。

日程第７．議案第３８号～日程第１０．議案第４１号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第７、議案第３８号から、日程第１０、議案第４１号まで４件を議題とし、これから一括して質疑を行います。これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、以上で議案第３８号外３件の質疑を終わります。

日程第１１．議案第４２号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第１１、議案第４２号令和４年度壱岐市一般会計補正予算（第

7号)を議題とします。

本件につきましては、議長を除く14名で構成する特別委員会を設置し、審査を行うようにしておりますので、質疑については委員会をお願いをいたします。

日程第12. 議案第43号～日程第17. 議案第48号

○議長(豊坂 敏文君) 日程第12、議案第43号から日程第17、議案第48号まで6件を議題とし、これから一括して質疑を行います。これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(豊坂 敏文君) 質疑がありませんので、これで議案第43号外5件の質疑を終わります。

日程第18. 認定第1号

○議長(豊坂 敏文君) 日程第18、認定第1号令和3年度壱岐市一般会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本件につきましては、議長を除く14名で構成する特別委員会を設置し、審査を行うようにしておりますので、質疑については委員会をお願いをいたします。

日程第19. 認定第2号～日程第25. 認定第8号

○議長(豊坂 敏文君) 日程第19、認定第2号から、日程第25、認定第8号まで7件を議題とし、これから質疑を行います。

認定第8号令和3年度壱岐市水道事業会計欠損金の処理及び決算の認定について、質疑の通告があつておりますので、これを許します。7番、植村圭司議員。

○議員(7番 植村 圭司君) それでは、認定第8号令和3年度壱岐市水道事業会計欠損金の処理及び決算認定について、御質問させていただきたいと思ひます。

水道料金の未収金の扱いについての質問でございます。令和3年度壱岐市公営会計決算審査報告書の3ページ第6審査意見3において、水道料金の未収金につきましては、回収整理の取組が十分ではないので、回収整理の方策を具体的に策定し計画的に実施するように必要があるというふうに記載がございます。この前の説明では、代表監査委員からもリストを作成する必要があるという指摘がございました。で、同じくこの件につきましては、これまで令和元年度には、島外転出者及び長期にわたり入金がない者等を分類し整理に努めるようにという指摘がありまして、令和2年度には、特に長期滞納者及び島外転出者の債権分類を行い、債権者の状況調査等を実施し、回収整理の方策を具体的に策定する等、整理に努めるように指摘がございます。要は今年と含めて、令和元年、令和2年と整理に努めるようにというふうなことで監査のほうで指摘が入つ

ております。毎年継続的に整理することや回収整理の方策を具体的にできるよう指摘を受けているわけでございますけども、このような状況を見受けた結果、なぜ、質問ですけども、なぜ数年にわたり具体的な回収整理の方策ができていないのか、２番目に今後の具体的な取組はどうしているのか、そして３番目に具体策を作成しても機能しなくては意味がないと思いますので、機能させる方法というのを考えたほうがいいと思いますけれども、見解をお伺いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） ただいまの質疑に対する理事者の答弁を求めます。増田建設部長。

○建設部長（増田 誠君） 植村議員の御質問にお答えをします。

まず、壱岐市債権管理条例では、市の債権には強制徴収債権と非強制徴収債権があり、強制徴収債権とは税金に代表されます強制徴収公債権にあたり、差押さえができます。非強制徴収債権には行政財産使用料などの非強制徴収公債権と私債権があり、これらは差押さえをすることができません。水道料や市営住宅使用料などは私債権になります。また、監査委員からの指摘の内容は、時効中断を的確に把握し徴収に努め、収入見込みのない者や徴収費用のほうが大きいものなどで、可能なものは不納欠損処理を行うなど、対応策策定のために、まず未納分類をすることというものでありました。なぜ数年にわたり、具体的な回収整理の方策ができていないのかについては、御指摘のとおり監査より指導助言をいただいておりますが、債権管理委員会の中で現年度分の収納率向上、次に滞納繰越分の回収と優先順位をつけて取り組むことを協議確認し、現年度分の徴収率向上から優先的に取り組んでおり、督促状、催告書の発送はもとより、電話催促及び臨戸訪問や夜間徴収の実施、１４件の給水停止などを行っております。令和３年度末の未収金は、前年度に比べ５０８万２，９６０円減り、実施成果として現れています。また、民法改正により、時効が２年から５年に延長となりましたが、時効対策として債権の一部納付をしていただくことや、承認のために分納誓約書等の提出をいただいて時効の更新となるよう努めております。

一方、破産の免責決定を受けた者については、不納欠損処理を行っており、令和３年度においては３件、２８万７，９２０円の不納欠損処理を実施しました。

次に、今後の取組はどうするのかにつきましては、これまで同様未収金対策に加え、債権整理として島外転出者で少額滞納者について、債権管理条例に基づき債権放棄からの不納欠損処理を行うため整理を実施中であります。最後に、具体策を作成しても機能しなくては意味がない、機能させる方策も考えたほうがいいと考えるが見解はにつきましては、債権管理委員会に提出した収納目標を実効性あるものにするため、現在も実施している給水停止、電話催促及び夜間徴収等の対策を強化するとともに、さらなる債権整理につきましても、税務課債権管理班と共同し継続して実施していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（7番 植村 圭司君） 御説明いただきまして、おおむね分かったんですけども、結局、努力をしてありまして結果も出ているということは理解できました。そして、職員さんも夜間回収等されてあるということでやられているのも分かりました。そしてお支払いされている方も大変な方がいらっしやいまして、全員がすんなりと払っていただける状態じゃないということも分かっております。今の答弁の中で分からないのが、このままいきますとその監査で指摘されているリストを作ることについての話なんですけども、リストは今ないという状態なのか、ちょっとは作っているのか、それで指摘を受けているリストがあれば何とかなるのかというところが、全くちょっと解決するのかどうかですね、この状態でいけば、また来年もリストを作れと言われて、リストを作りきれないと、また指摘を受けるという話になると思いますので、どうすれば、解決する方法として努力しているのは分かるんですね。分かるので、事務手続上の仕事の問題として、債権のその分類をしてリストを作るとことはやっているのかと、可能なのか、それは来年指摘を受けないようにできるのか、来年も指摘を受けないようにできるのかということを教えていただきたいということですね。

○議長（豊坂 敏文君） 増田建設部長。

○建設部長（増田 誠君） 御質問にお答えをします。

現在、不納欠損処理をするために、破産手続が完了している方、それから島外で少額の未納者、それから死亡後相続人が不在のもの、それから相続人がいて請求ができるものについての債権分類リストを作成中です。ただ監査から指摘されているような十分完成したものではないということになります。で、この分につきましては、今現在もう取組中でございますので、今しばらくお時間をいただきたいと思います。

その結果、監査からは、来年も指摘を受けないかどうかについては明確な回答は、今のところできませんので。受けないように十分努力をしたいと考えております。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（7番 植村 圭司君） 分かりました。来年指摘を受けないように努めるということでございますので、よろしくお願いいたします。

それと、水道料金につきましては、水道料の改定というのも考えていらっしやると思いますので、この解決、指摘を受けている状態で、水道料を変えますよと言ったところで、説得力がなくなってくると思うんですね。事務の処理としまして、扱いとして、誰もが納得して水道料払えるような状態になるように努めていただきたいと思いますので、指摘をして終わります。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 以上で、通告のよる質疑を終わります。ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、これで認定第2号外6件の質疑を終わります。

以上で議案に対する質疑を終わります。

これより委員会付託を行います。

議案第38号から議案第41号まで及び議案第43号から議案第48号まで並びに認定第2号から認定第8号まで17件をタブレットに配信しております議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託します。

お諮りします。議案第42号は議長を除く14名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議案第42号については議長を除く14名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託して審議することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました予算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長を除く14名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議長を除く14名を予算特別委員に選任することに決定しました。

今定例会における予算特別委員会の正副委員長につきましては、議会運営委員会で協議し、産業建設常任委員の中からとし、委員長に中田恭一議員、副委員長に武原由里子議員と決定いたしましたので報告をいたします。

お諮りします。認定第1号は、議長を除く14名で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、認定第1号については議長を除く14名で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定いたしました。

お諮りします。ただいま設置されました決算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長を除く14名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議長を除く14名を決算特別委員に選任することに決定いたしました。今定例会における決算特別委員会の正副委員長につきましては、議会運営委員会で協議し、総務文教厚生常任委員の中からとし、委員長に清水修議員、副委

員長に植村圭司議員と決定いたしましたので報告をいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

次の本会議は、明日9月13日月曜日午前10時から開きます。

なお、13日、14日、15日の3日間は一般質問となっており、計10名の議員が登壇する予定で、壱岐市ケーブルテレビ、壱岐エフエムにて生中継いたします。市民の皆さんにおかれましては、御視聴いただきますようよろしくお願いをいたします。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午前10時44分散会
